

Y4-17

ICU勤務異動者の教育システムの構築

福井赤十字病院 集中治療室
原田 幸枝、西川 順子

ICUでの看護は、患者の生死に直面し、多くの生命維持装置を装着した患者とその家族に対する的確な臨床判断を瞬時に求められ、トータル的にアセスメントする能力が要求される。看護の基本の専門性に加え最新の知識や高度な技術を習得し、クリティカルケアという専門性も習得しなければならない。勤務異動者（以下異動者）は異動後、このような新たな任務を担うこととなる。異動者の不安を緩和させ、クリティカルケア看護に求められる任務を果たしながらキャリアアップできるようにするために綿密な教育計画が必要不可欠であると考え、H21年度に新たなICU教育システム（以下システム）の構築の取り組みを開始した。

1年目はシステムの土台作りとして、目標設定と評価基準が明確化された年間教育スケジュールパスを作成、指導内容の統一化のためにA病院の看護基準やマニュアルをもとにICU独自の指導資料を作成、さらに異動者の精神的なフォローを中心とする相談者や技術習得の指導者である技術項目担当者の役割設定を行い、システムを稼働させた。スタッフからはシステム内容の80%以上について賛同を得た。2年目はシステム内での各役割が果たせるように改善に取り組んだ。リーダー的立場である技術項目担当者自身の存在価値の実感や成長を促すためにも技術項目担当者会を開催し、指導者であることを自覚、連帯感を感じてもらう機会を設けた。それにより、役割を果たせていると回答するスタッフが他者および自己評価にて60%以上増加し、異動者の技術項目の習得も10ヶ月の時点で80%以上をクリアできた。3年目はシステムを継続可能なもの、さらにICUスタッフ全員で異動者を育てるという意識がもてるよう改善し、システムの継続体制と異動者への関心の強化を行っている。新たなシステム導入後、3年目の今後の課題についてさらに検討する。

Y4-18

新人看護職員研修における教育担当者研修の評価と今後の展望

山田赤十字病院 研修センター
宮門 郁代、石谷 操

【はじめに】当院では2008年度より新人看護職員の指導者育成のために教育担当者研修を実施している。3年間の取り組みの評価と今後の展望について考察する。

【プログラムの概要】教育担当者研修プログラムは「教育担当者の役割の理解及び支援のための基礎力の習得」を目的とし、総時間数77時間で構成している。研修の特徴は、1)教育担当者に必要な基礎的知識の提供、2)新人看護職員研修プログラムの作成、3)演習等の方法論の導入、4)他施設研修生との合同研修である。

【研修生の概要】3年間で院内52名、院外15名の合計67名が修了した。院内はキャリア開発ラダーレベル3及びそれに準じる者、院外は看護係長が主に参加をしている。

【研修評価】1)教育担当者に必要な基礎的知識、2)新人看護職員研修プログラムの理解については90%以上が理解を得られたと回答、3)演習での学び及び全体的な研修プログラムの満足度も90%以上が同様の結果であり、自部署の新人看護職員研修の課題の明確化に繋がったと93%が回答している。4)施設間の情報交換は研修生の視野を広げ、自施設を改めて知る機会になっている。

【考察】当研修目標は概ね達成できている。効果に繋がったのは1)基礎的な研修内容を盛り込んだ研修時間の確保、2)研修プログラムの作成経験から得る理解、3)40%を占める演習で他者との関わりから得られる自己の教育観の気づきや明確化であると考え。施設間交流は研修生の視野を広げ、学びを深めている。また、自施設から地域の看護職員の育成に考えを広げるに至っている。このことは一施設内の研修では得られない効果である。今後は研修の継続とともに研修修了者のフォローアップ等にも取り組み、施設を超えた研修生相互の関係の中で、より指導者の質を向上していくための支援も検討したい。